

きずな

2009年 3月19日

NO 737

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (Tel 62-6200)

井原市議会3月定例会で日本共産党の石井敏夫議員が11日に、森本ふみお議員が12日に質問しました。両議員の質問と執行部の答弁の概要は次のとおりです。写真は井原放送より。

石井敏夫議員の質問の概要

1. 70歳以上の方の前立腺がん検診の本人負担を無料にしては

前立腺がんは年々増加しているといわれています。本市の受診状況と、がんが発見された人数の状況はどうですか。

また、多くの対象者にお金の心配をしなくて受診してもらうため受診料を無料にしてはどうですか。

2. 悪臭対策について

依然として悪臭に対する苦情を聞きます。このことについては平成15

年12月議会と、平成17年9月議会、そして昨年6月議会に質問しています。

特定悪臭物質濃度の測定で、今までに規制基準を超える測定結果が一回検出されたとの

ことでした。そこで、

- ①その後の悪臭に対する苦情の状況はどうですか。
- ②その後、特定悪臭物質濃度の測定結果はどうですか。
- ③今後測定時期、測定回数をふやすことを考えてはどうですか。

森本ふみお議員の質問の概要

1. 市内企業での派遣切りなどに対し、市の対応の一層の強化を

全国的に派遣切り、雇い止めなどを行う企業が後を絶ちません。井原市でも派遣切りなどで多くの労働者が厳しくつらい立場に追い込まれています。これからも派遣切りされる労働者がふえます。これらの方々を守る手だてを、市は第一次の対策として講じられましたが、まだまだ不十分です。

企業に派遣切りなどしないよう申し入れを行うなども含め、これらに対する対応を一層強化すべきではないでしょうか。

2. 美星国保診療所の存続のため最大限の手だてを

市長は、「美星国保診療所 **2面左側へつづく**

左の質問に対する執行部答弁の概要

受診状況は平成17年度933人、がん発見者数7人。18年度976人、がん発見者数6人。19年度957人、がん発見者数5人。

現在、700円を本人負担してもらっている。医療機関における個別検診のみとなっているので、受診し易い体制整備の一環として、また、健康寿命の延伸を図る観点からも、**平成21年度から実施していきたい。**

①苦情件数は、平成18年度17件、19年度18件、20年度は本年2月までで8件。

②平成19年3月末に一箇所の養鶏場から、アンモニアに関する規制基準2.0ppmを超える2.6ppmの測定結果が検出されたため、悪臭の発生防止にかかる改善計画書の提出を求めて、悪臭対策として鶏糞、堆肥の野積みの解消。飼料への消臭剤の添加、堆肥発酵施設への消臭剤自動頒布装置の設置等の改善計画の提出を受け、同年6月末までに実施していただいた。

その後の測定結果は、専門機関に委託して、年2回をめぐりに定期的実施している。おおむね夕方気温が下がり、臭気が上空から下りて来る時間帯に採取している。

③当面、年2回分の検査費を季節や時間帯など考慮しながら有効に執行して行きたい。

左の質問に対する執行部答弁の概要

1月27日に「井原市緊急経済雇用対策本部」を設置し、第一次の対策として、臨時職員8名の募集を行うと共に、市営住宅7戸への優先入居を実施している。相談窓口2箇所を設け、従業員20名以上の市内企業74社に対し、雇用状況等の調査をした。この内半数以上が何らかの雇用調整を行っている。

20年度補正予算で企業への経済的支援をすることとした。21年度でも第三次対策として支援をし、効率的・効果的な対応をしたい。

これまでも申し入れてきたが、今後、情報収集に努めながら、派遣切りをしないようお願い・申し入れすることを考えている。国・県へも申し入れる。

旭川荘としても医師確保に努めるが、市としても努力していただきたいとのことだった。その後医師確保は困難だとの判断で、 **2面右側へつづく**

森本ふみお議員の質問の概要

左の質問に対する執行部答弁の概要

は存続させます」と、たびたび明言しておられます。私は、先の12月議会でも提言を含めた質問をしましたが、3カ月たった現在、市としてのこれまでの取り組みと、私を初め多くの方々はなんとしても存続していただきたいと思っておられます。今後の見通しをどう立てておられるのですか。

指定管理者の公募という選択肢を採った。公設民営が一番良いのではと考えている。直営の道というのは、指定管理者がお願いできなかったときは、市民病院を中心とした医師の派遣も考えていかなければならないのかなと考えている。

3. 緑内障、白内障の早期発見、早期治療のため、市が積極的に眼科健診の実施を

緑内障は自覚症状がほとんどなく発見が遅れ、どんどん進行するというケースがあります。白内障は最近では手術でかなり改善されます。これらは早期発見、早期治療が望まれます。そこで、緑内障、白内障の早期発見、早期治療のため、市が積極的に眼科健診を実施してはどうですか。

現在、緑内障や白内障を発見するための眼科検診はしていないが、健康診査の中で、血圧が高いなど循環器疾患の疑いがある方が対象とされている眼底検査を市独自に拡大実施している。受診者の約1%の人に、緑内障や白内障の疑い等の眼科疾患が発見されております。引き続き眼底検査を続けて行く。新たに眼科検診の導入は、現段階では困難。今後は医師会と協議するなど調査研究をして行きたい。

4. 父子家庭へも母子家庭並みの助成を

ひとり親家庭で、母子家庭に対する、国・県の各種助成は実施されていますが、児童扶養手当等、父子家庭に対しても、母子家庭並みの助成を考えてはどうでしょうか。父子家庭の状況把握をしては。

本年1月末の母子家庭は、397世帯、この内20歳未満の子が617人。父子家庭は、81世帯で131人です。父子家庭も児童扶養手当の対象にするよう、市長会等を通じて国に働きかけて行こうと考えている。調査をし、状況把握することが第一と考えます。

5. 学校図書館の学校司書の全校配置と正職員化を



市内の各学校に専任の学校図書館の学校司書は配置されておらず、兼務となっています。各学校に専任の学校司書の配置と、嘱託職員を正職員化してはどうですか。

井原市内の小・中学校においては、正規1人、嘱託7人、長期臨時1人を配置し、小・中全てで、学校図書館の仕事を担当していただいている。現体制は17年度以降ですが、学校数の減少もあり、3校兼務の解消が徐々に図られている。今後も学校図書館を核とした子どもの読書活動推進という観点から、学校司書の役割は重要だと考えている。21年度に見直される「井原市子ども読書推進計画」の中で学校司書についても検討し、正職員化も「定員管理適正化計画」の中で、十分検討し、対処しなければならないと考えている。

6. 市内循環バスを低床バスに買い替えを。また、デマンドタクシーの導入を

市内循環バスは足が不自由な方は利用しにくいので、低床バスに切り替えてはどうですか。また、循環バス路線のコースから遠い方は、なかなか利用できないというのが実情です。こういう方々のために、デマンドタクシーを導入し、路線バスへは減収分の補助を上乗せするようにしてはどうですか。

現在、井原地区を運行している循環バスは4台あり、購入費の90%を市が補助している。1台約1千万円。車両は比較的新しく更新時期ではない。低床バスは1台1千5百万円以上で、井笠鉄道にも負担を強いることにもなり、現時点での導入は困難である。ご提言の内容だと、費用対効果や現在の補助の状況から見ていかなものかなと考える。しかし、デマンドタクシー導入は、非常によい手立てだと考えているので、これからのバス路線のあり方も含めて改めて仕切り直して検討に入りたい。

「後援会事務所びらき」のご案内

下記のとおり3月29日に後援会事務所びらきを行います。多数ご参加ください。

- 森本ふみお後援会事務所びらき 午前 9時より 木之子町2721-23の自宅 TEL62-6061
- 西山 省三後援会事務所びらき 午前11時より 青野町97の自宅 TEL62-7437